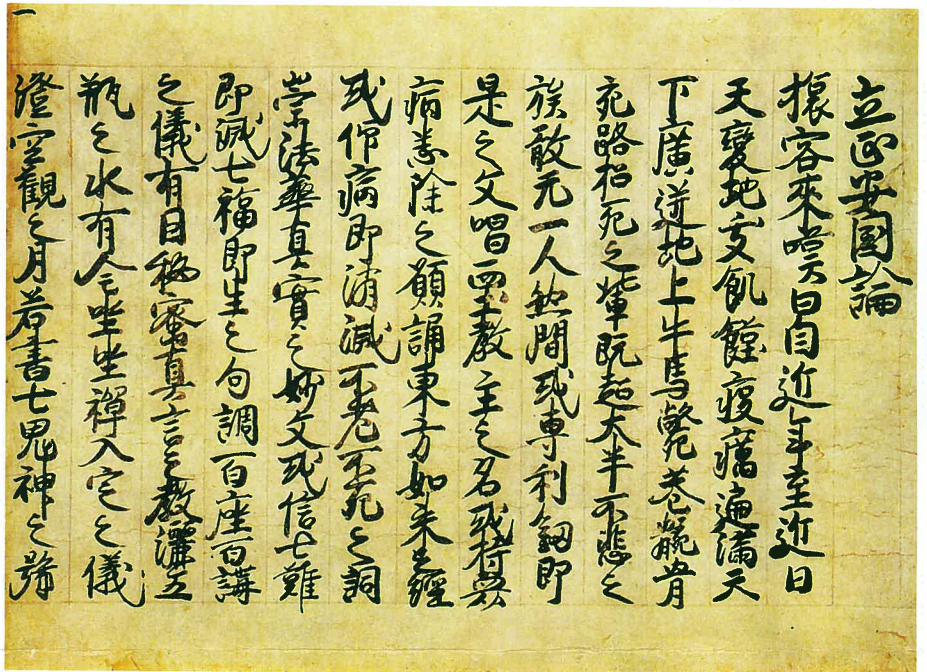


日蓮大聖人の仏法



立正安国論・日蓮大聖人御真跡

富士大石寺顕正会会長
浅井昭衛 著



本書の目次一

- 第一章 日蓮大聖人とはいかなる御方か
- 第二章 人生の目的と幸福論
- 第三章 十界論
- 第四章 三世常住の生命
- 第五章 仏法の実践
- 第六章 日蓮大聖人と釈迦仏の関係
- 第七章 日蓮大聖人の一代御化導
- 第八章 富士大石寺の歴史
- 第九章 日蓮大聖人の御遺命
- 第十章 御遺命守護の戦い

日蓮大聖人とはいかなる御方か (本文より)

日蓮大聖人は、末法濁悪の人と国を、根底からお救い下さる大慈大悲・絶大威徳の御本仏であられる。

人生の目的は成仏にある

人生の目的を知らずに生きていくのは、行先不明のバスに乗っているのと同じである。人生の目的は、実に成仏を得るにある。成仏とは、生死を乗り越えて永遠に崩れぬ、無上の幸福境界をいう。

日蓮大聖人の仏法を実践すれば、いかなる人も宿命が変わり、現世には幸いを招き、臨終には成仏の相を現じ、死後の生命も大安楽を得る。これが成仏の境界である。

死後の未来のことなどわからぬ、という人もあろう。し

かし仏法は空理・空論ではない。すべて証拠を以て論ずる。その証拠とは臨終の相である。臨終は一生の総決算であると同時に、臨終の相に、その人が死後の未来に受けるべき果報が現われる。だから臨終は人生の最大事なのである。ゆえに日蓮大聖人は「されば先づ臨終の事を習うて後に他事を習うべし」と仰せられている。

では、地獄に墮ちる相、あるいは成仏の相とはどのようなものかといえは

「人は臨終の時、地獄に墮つる者は黒色となる上、其の身重き事千列の石の如し。善人は説いて七尺八尺の女人なれども、色黒き者なれども、臨終に色変じて白色となる、

なる。これ仏法と国土を守護する諸天善神の力用による。日蓮大聖人は時の国主に對し、立正安国論を以て「念仏・真言・禪・律等の邪法に執着して、法華経の肝心たる三大秘法を立てなければ、この国必ず他国侵逼の大難を受ける」(取意)と諫められ、さらに「国を失い家を滅せば、何れの所にかせを遣れん」と警告された。

しかし日本は四方を海で囲まれていた。当時、この他国侵逼の御予言を信ずる者は誰もいなかった。

だが十四年後、御予言は事実となった。世界を侵略・席捲した大蒙古が、日本を亡ぼすに足る圧倒的な兵力を以て二度も襲来したのである。

日蓮大聖人の御予言は、海外情勢などによる推測などではない。実に、仏法を守護する諸天善神に申し付ける絶大威徳を以ての御断定であれば、違ふことがないのである。

もし他国侵逼が事実になれば、人々は始めて後悔の心を起こし、死後の無間地獄の大苦を今生に消滅させることができる。

立正安国論の御予言はまさにこの大慈大悲であられる。ゆえに大聖人は「現世に云いおく言の違わざらんを以て、後生の疑いをなすべからず」

また、「あへて憎みては申さず、大慈大悲の力、無間地獄の大苦を今生に消さしめんとなり」と仰せられている。

また、この予言の中を見れば、もし日本国一同が日蓮大聖人を信じて南無妙法蓮華経と唱え奉り、御遺命のままに国立戒壇を建立すれば、日本は仏国となつて真に安泰になること、断じて疑いない。これが「立正安国」の実現である。

大聖人の命を奪わんとした。かくて、ついに国家権力による死罪が執行されたのである。

文永八年九月十二日の深夜、大聖人は竜の口刑場の「頸の座」に坐し給うた。そして大刀まさきに振り降ろされんとしたその刹那、「月のごとく光りたる物」が突如出現し、太刀取は目がくらんでその場に倒れ伏し、数百人の兵士たちも一斉に逃げ出し、みなことごとく砂浜にひれ伏してしまった。ひとり頸の座にまします大聖人は高聲に

「頸切るべくわ急ぎ切るべし。夜、明けなば見苦しかりなん」と死刑執行を催促された。しかし近よる者としてなかつた。まさに国家権力が、ただ一人の大聖人の御頸を切れず、かえつてその絶大威徳の前にひれ伏してしまつたのである。このように不可思議・莊嚴な光景は、この地球上に未だ曾てない。この思議を絶する大現証こそ、日蓮大聖人が久遠元初の御本仏、末法の全人類をお救い下さる仏様であることを顕わすものである。

残された時間は少ない

大聖人は流罪の地・佐渡の雪中において「日蓮によりて日本国の有無はあるべし」と叫ばれた。すなわち、日蓮大聖人を信ずるか背くかによつて、日本国の有無も、人類の存亡も決するということである。いま世界は核兵器使用の第三次大戦の瀬戸際にあり、人類は絶滅の危機に瀕している。その中で日本は軍事超大国・中国の侵略に脅かされている。この国に大慈大悲・絶大威徳の御本仏ましますを無視し、背き続けているゆえに、いま日本は亡国を招かんとしているのである。この大國難には、日米安保も第九条も虚しい。今こそ全日本人は、大慈大悲・絶大威徳の日蓮大聖人に帰依し奉り、国立戒壇を建立して金剛不壊の仏国を築かねばならない。残された時間は少ない。